



大塚図書館 - 社会人大学院生の強い味方

著者	石隈 利紀
雑誌名	つくばね : 筑波大学図書館報
巻	26
号	2
ページ	1-3
発行年	2000-09-12
URL	http://hdl.handle.net/2241/10434

つくばね vol.26no.2

目次

- I 大塚図書館 - 社会人大学院生の強い味方
- 4 附属図書館ボランティア5周年記念式・講演会開催
- 5 Ask Us としょかんミニガイド
- 7 附属図書館開館日カレンダー
- 7 私の一冊
- 9 本学教官寄贈著書紹介
- 9 とびっくす
- 10 掲示板



大塚図書館 社会人大学院生の強い味方

石隈 利紀

私と図書館

図書館は学生や研究者の生活にとって、錨のようである。つまり、図書館は先達から引き継がれた研究成果や国内外の仲間が「たった今生産したばかりの」知的財産（おもり）であり、私たちの研究生活（船）が思いつきや不確かな情報（心地よくはあるが怖くもある風）で流されないように支えてくれるのである。私はアメリカ合衆国のアラバマ大学大学院で学校心理学を学び、また研究した。アラバマ大学の図書館でいかめしい装丁の心理学の古典で W. James, J. Watson, B.F. Skinner,

S. Freud などの考えに、わくわくしながら触れた。そして指導教官や兄弟子や同僚らが発表したばかりの論文が掲載されている雑誌を、明日は私の論文が載ることを祈りながら、手にしたものである。現在はコンピュータの普及で、自分の研究室でも文献検索ができるようになったが、図書館で古典に触れ、学術雑誌を見ることが、研究の支えであることには変わりはないと思う。本稿では、現在お世話になっている大塚図書館を、夜間大学院の立場から紹介する。



自動貸出装置



閲覧室



カウンター

大塚図書館

大塚図書館は、筑波大学東京校舎のG館の1階にある。春は窓に桜を楽しみ、夏は蝉の声にせかされながら、私たちは図書館で資料を探したり、研究したりしている。さて大塚図書館の主たる利用者は、東京校舎にある学校教育部、大学研究センター、理療科教員養成施設、そして夜間大学院として教育研究科カウンセリング専攻、経営・政策科学研究科経営システム科学専攻、企業法学専攻（以上は修士課程）、および経営・政策科学研究科企業科学専攻（博士課程）の教職員および学生・大学院生、そして附属学校の教職員である。大塚図書館は、夜間大学院生の便宜を図っており、時間外利用も含めると、朝9時から夜11時まで利用でき、自動貸出装置も設置されている。なお、大塚図書館の学期中の開館時間は月＝9:00～17:00、火～金＝13:00～21:10、土＝13:00～19:50と夜間大学院の授業時間に対応したのになっており、時間外利用の対象者は大塚地区の教職員および大学院生である。

私は、教育研究科カウンセリング専攻を担当している。大学院生には、教師、カウンセラー、看護婦、保健婦、ソーシャルワーカー、企業に勤める者などがいる。かれらは、平日は仕事帰りに急いで、午後6時20分からの授業に駆け込み、9時に授業が終わると今度は図書館に駆け込んで論文を探すのである。土曜日の授業は、午後1時45分から7時35分までなので、さらに多くの時間を図書館で過ごすことができる。

さて夜間大学院の社会人大学院生にとって、大塚図書館はどのような働きをしてくれているのだろうか。

研究についての体験学習を支援する

大学院生の多くは、さまざまな職場で、「カウンセリング」（人々の成長や困りごとの解決の援助）に関する仕事をしている。つまり実践においては、経験者である。しかし、研究については経験が少ない者が多く、研究のために図書館を使うことは初めてという場合もある。授業で推薦された論文を探す、授業で発表したりレポートを書くために論文や図書を探すという作業を、大塚図書

館で体験学習していくのである。

レポートや論文作成を支援する

大学院生は、中央図書館や医学図書館から、報告書や論文のコピーを取り寄せてもらったり、レポートの締め切り間際には至急扱いで論文のコピーを送ってもらったりするのである。

古典に出会う機会を提供する

授業のレポート作成、発表の準備、論文作成について、急いで文献を探すだけが、図書館の役割ではない。大学院生は、多くの時間を図書館で過ごすなかで、目の前に迫る締切を忘れて、書棚をぼんやりとながめることがある。また図書館を散策することがある。そんなとき、フロイトやユングの書を見つけるのである。レポートの締切を守ることよりも、フロイトの書を読む方が大切に思えたりする。古典はかび臭いものであるが、かびには歴史を耐えてきた真実の香りがするから不思議である。新しい理論やモデルの基盤となっていること、そしてときには新理論よりもっと新しいことが、古典にはある。社会人大学院生には時間が限られており、古典を楽しむ余裕があまりないのが残念である。しかし、図書館で古典の顔を一度見て、古典の肌に少し触れるだけでも、研究を続ける力と知恵が与えられる。自分が生産するひとつの研究成果が、長年の歴史の流れのなかにあることを知ることは重要である。古典は会いたくなったらいつでも会える。だからこそ古典なのである。

つまり、大塚図書館は社会人大学院生にとって、学習の場であり、研究の場であり、研究者としての第一歩を記す場でもある。ここで、教育研究科カウンセリング専攻の修了生の声を紹介したい。

・A教師（女性）

大塚図書館は、夜間大学院の学生にとって必需品である。文献を検索したり、他の図書館にある文献のコピーをお願いしたりと、図書館を大いに利用しなくては研究が進まないし、卒業することができない。夜間大学院に入るまでは研究活動で図書館を利用するという経験がほとんど皆無だった私ですら、こんなに大塚図書館を便利に使えるようになるのだから、図書館の職員の方はさぞか

し新入生の対応に苦労されているだろう。コンピュータでの検索も年々改良を加え、初心者でも使いやすいように環境整備を工夫してくださっている感じが感じられる。最近では、インターネットで筑波大学電子図書館にアクセスして文献の検索をすることも覚え、一段と使い勝手が良くなった。

そんな中で、大塚図書館が特に便利だったのは、夜11時まで（土曜・日曜も！）利用できるところだ。仕事帰りに急いで授業に駆け込み、授業が終わると今度は図書館に駆け込んで論文を探す。この作業が可能なのも、大塚図書館が夜遅くまで開館しているからである。もし、他の図書館のように5時で閉館してしまったら、仕事を休んで文献検索をしなくてはいけなくなる。アフター5に研究を進めることが実質的に無理だということになる。この点で大塚図書館は、夜間大学院同様、もう一度専門的な学習をしたいと願う社会人をしっかりとバックアップしてくれていると言ってもいいだろう。

・Bカウンセラー（男性）

大塚のカウンセリング専攻で過ごした2年間は、本当に忙しかった。昼間の仕事を気にしながらも、授業や修士論文の執筆と目まぐるしく過ぎ去った2年間であった。そんな中で、大塚の図書館は社会人大学院生の強い味方であった。中央図書館や医学図書館から、報告書や論文のコピーを取り寄せてもらったり、レポートの締め切り間際には至急扱いで論文のコピーを送ってもらったりした。図書館で働いておられる方は、多分、社会人大学院生の押しの強さ、少々のことではめげない図々しさに随分と戸惑いを感じられたと思う。そんな中、いろいろと相談に乗ってくれて大変感謝している。

最後に大塚図書館に希望することを書きたい。

資料、データベースの充実とスペースの拡大

大塚図書館におかれている雑誌、図書などの資料はまだとても少ない。またカウンセリング専攻や（全国で唯一の）理療科教員養成施設があるにもかかわらず、MEDLINE や医学中央雑誌などの

データベースが使えないのは不便である。

資料の充実を図るためには、スペースの拡大が緊急の課題だろう。本一冊棚に入れるのにも、図書館の方は苦労されているようである。図書館には古典と最新の研究成果の両方をおく必要があり、現在利用している研究科や部署の数を考えると、大塚図書館は狭すぎるように思える。

修了生の利用について

夜間大学院の修了生の中には、修了後も研究を続けようという気持ちを持ち続けるものも多い。願わくば、修了生にも在籍者に対するような大塚図書館のサービスを、受けさせてほしいのである。社会人にとって、専門図書の貸出し、学術論文のコピー取り寄せ等のサービスをお願いできる図書館は数少ない。社会人が研究活動が続けることをバックアップするという、図書館としての先駆性を大塚図書館に期待したいと思う。国立大学の中には、期限付きながら修了生に図書館使用の権利を与えている大学もある。ぜひ、修了生にも閲覧・検索以外の図書館利用の道も開いてほしい。

（いしくま・としのり 心理学系助教授
教育研究科 カウンセリング専攻
〔夜間大学院〕担当）

